

令和2年分 青色申告決算書（一般用）の書き方

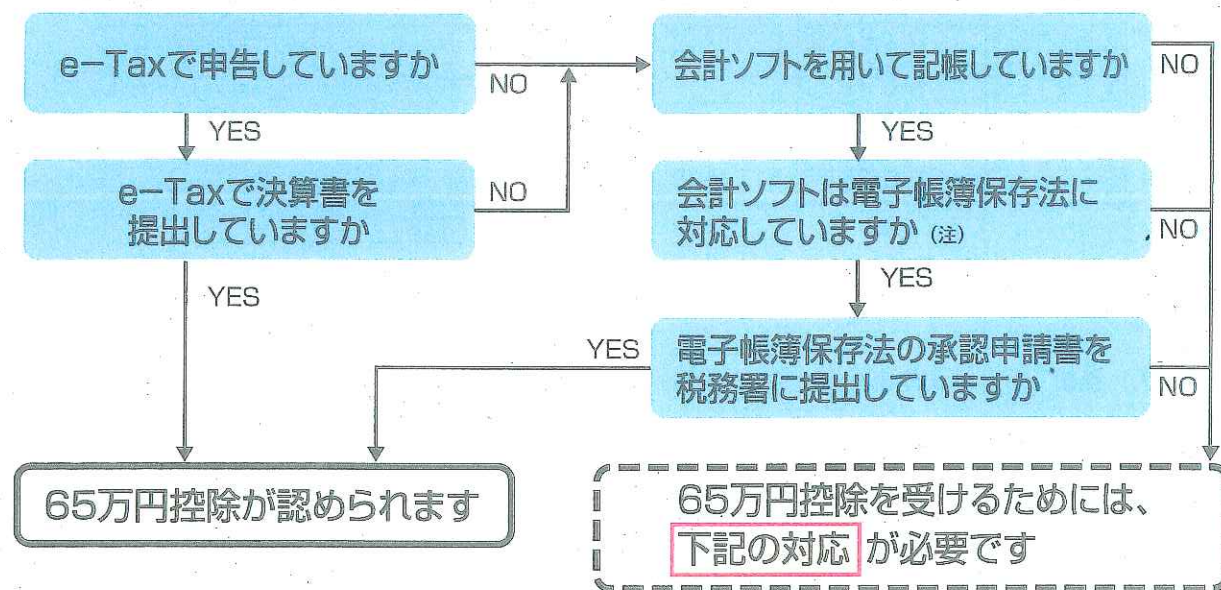
税 務 署

- この説明書は、「所得税の青色申告決算書（一般用）」の作成方法などを説明しています。
- 有限責任事業組合の組合事業から生じる事業所得がある方は組合事業ごとに、損益計算書を作成する必要があります。
- この説明書は、令和2年10月1日現在の法令等に基づいて説明しています。

令和2年分 の所得税確定申告から

65万円の青色申告特別控除の適用要件が変わりました!!

● 令和2年分申告で65万円の青色申告特別控除を適用するためのフローチャート



以下のいずれかの要件を満たす必要があります。

- e-Taxを利用して申告書及び青色申告決算書を提出する。
- 電子帳簿保存法に対応する会計ソフトを用いて記帳し、かつ、電子帳簿保存の承認申請書を税務署に提出する(令和2年分に限っては令和2年9月30日まで提出可)。

e-Taxによる申告(電子申告)又は電子帳簿保存への移行はお早めに!

(注) 電子帳簿保存法の対応要件は、国税庁ホームページ「電子帳簿保存法関係」をご確認ください。その他の内容についても、詳しくは、「国税庁ホームページ(<https://www.nta.go.jp>)」をご確認ください。

申告書・青色申告決算書は、国税庁ホームページで作成できます!

国税庁ホームページで、**申告書**や**青色申告決算書**などを作成することができます。

- ◆作成した申告書は、マイナンバーカードとICカードリーダライタ又はマイナンバーカード対応のスマートフォンを用意すれば「e-Tax（電子申告）」を利用して提出できます。
- ◆マイナンバーカードを使用してマイナポータルと連携すれば、生命保険料控除等の情報を取得でき、申告書に自動入力することができます。
- ◆事前に税務署で手続きしていただければ、マイナンバーカードとICカードリーダライタ等をお持ちでない方でも、e-Taxをご利用できます。

また、印刷して郵送等により提出することもできます。
詳しくは、国税庁ホームページをご覧ください。

確定申告



決算書にマイナンバー（個人番号）の記入は不要です。

FA3000

令和 02 年分所得税青色申告決算書（一般用）

事業の内容を具体的に記入します。
例：青果小売業、自動車板金塗装業など

住所	〇〇市△△町××-××-××	フリガナ氏名	〇〇 太郎	事務所所在地	
事業所所在地	同上	電話番号	(自) 〇〇-××××-×××× (事業所) △△-△△△△-△△△△	氏名(名称)	
業種名	〇〇小売業	原号	〇〇商店	加入団体名	〇〇青色申告会

令和 3 年 3 月 2 日

損益計算書（自 1 月 1 日 至 12 月 31 日）

提出用 令和二年分以降用	科 目	金 額 (円)	科 目	金 額 (円)	科 目	金 額 (円)
提出用	売上(収入)金額 (雑収入を含む) ①	39280000	消耗品費 ⑦	3780000	貸倒引当金 ⑩	64460
提出用	雑収入商品(製品) ②	3705000	減価償却費 ⑧	1447549	各戻引当金 ⑪	
提出用	仕入金額(製造原価) ③	27576000	福利厚生費 ⑨	1730000	計 ⑫	64460
提出用	小計(②+③) ④	31281000	給料賃金 ⑪	2625000	専従者給与 ⑬	1200000
提出用	期末商品(製品) ⑤	3814000	外注工賃 ⑫		貸倒引当金 ⑭	74140
提出用	期首商品(製品) ⑥	27487000	利子割引料 ⑬	128000	備前金等 ⑮	
提出用	差引金額(④-⑥) ⑦	11793000	地代家賃 ⑭	120000	計 ⑯	1274140
提出用	租税公課 ⑧	385000	貸倒金 ⑮		青色申告特別控除額(⑯-⑰) ⑱	4107771
提出用	減価償却費 ⑨				青色申告特別控除額 ⑲	550000
提出用	水道光熱費 ⑩	224000			所得金額(⑲-⑳) ㉑	3557771
提出用	旅費交通費 ⑪	148000			⑳ 青色申告特別控除については、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を読んでください。	
提出用	通信費 ⑫	167000			㉒ 下の欄には、書かないでください。	
提出用	広告宣伝費 ⑬	105000			㉓	
提出用	接待交際費 ⑭	163000			㉔	
提出用	損害保険料 ⑮	105000			㉕	
提出用	修繕費 ⑯	259000			㉖	
提出用			計 ⑰	6475549		
提出用			差引金額(⑰-⑱) ⑲	5317451		

- 1 -

○損益計算書

売上(収入)金額 (雑収入を含む) ①	決算書2ページの「月別売上(収入)金額及び仕入金額」の「売上(収入)金額」の計の金額を記入します。
期首商品(製品)棚卸高 ②	期首と期末の棚卸表から、それぞれの商品(製品)の棚卸高を記入します。 なお、原価計算を行っている場合は、製造業の原材料、半製品、仕掛品などの棚卸高は決算書4ページの「製造原価の計算」の表の該当欄に記入します。
期末商品(製品)棚卸高 ⑤	
仕入金額 (製品製造原価) ③	
経費(⑧～⑳)	経費帳の各科目の口座から、決算整理後の金額を記入します。
租税公課 ⑧	消費税の課税事業者が、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」といいます。)の経理処理を税込経理方式によっている場合に消費税等の納付税額があるときは、その納付税額(納付税額を本年分の未払金に計上したときは、その未払金に計上した金額)を含めて、この欄に記入します。
減価償却費 ⑱	決算書3ページの「減価償却費の計算」の「㉑本年分の必要経費算入額」の計の金額を記入します。 なお、製造業で原価計算を行っている場合の工場や機械などの減価償却費は、この欄には含めないで決算書4ページの「製造原価の計算」の表の該当欄に記入します。
給料賃金 ㉑	青色事業専従者に支給した給与は、この欄には記入しないで「専従者給与㉓」欄に記入します。
繰戻額等 (㉔～㉖)	引当金や準備金で前年に繰入れや積立てをした金額又は一定の計算により取り崩した金額をそれぞれ記入します。
繰入額等 (㉗～㉙)	引当金や準備金の勘定に繰入れや積立てをした金額をそれぞれ記入します。
青色申告特別控除前の所得金額 ㉚	「家内労働者等の事業所得等の所得計算の特例」の適用のある方は、「家内労働者等の事業所得等の所得計算の特例の適用を受ける方へ」(注)を参照してください。
青色申告特別控除額 ㉛	決算書2ページの「青色申告特別控除額の計算」の㉜欄の金額を記入します。

(注) 国税庁ホームページからダウンロードできます。なお、税務署にも用意しています。

令和 02 年分

氏名 国枝 太郎

FA3025

○月別売上(収入)金額及び仕入金額

月	売上(収入)金額	仕入金額
1	2,644,000	1,756,000
2	2,506,000	2,102,000
3	2,780,000	2,149,000
4	3,044,000	2,195,000
5	3,107,000	2,452,000
6	3,459,000	2,283,000
7	3,228,000	2,014,000
8	2,859,000	2,227,000
9	3,351,000	2,456,000
10	3,602,000	2,629,000
11	3,838,000	2,605,000
12	4,135,000	2,928,000
計	39,280,000	27,596,000
うち前年同月比	3,000,000	2,000,000

○貸倒引当金繰入額の計算 (この計算に当たっては、「決算の手引き」の「貸倒引当金」の項を参照してください。)

個別評価による本年分繰入額	金額
①	
②	1,348,000
③	74,140
④	74,140
⑤	74,140

(注) 貸倒引当金、専従者給与や3ページの別添(特別) 借入金以外の特典を利用する人は、適宜の用紙にその明細を記載し、この決算書に添付してください。

○給料賃金の内訳

氏名	年齢	延べ従事月数	給料賃金	賞与	合計	所得税及び復興特別所得税の源泉徴収税額
国枝 太郎	25	12	1,200,000	300,000	1,500,000	19,100
国枝 太郎	21	12	900,000	225,000	1,125,000	0
その他(人分)						
計		24	2,100,000	525,000	2,625,000	19,100

○専従者給与の内訳

氏名	年齢	延べ従事月数	給料賃金	賞与	合計	所得税及び復興特別所得税の源泉徴収税額
国枝 幸子	38	12	960,000	240,000	1,200,000	2,600
計		12	960,000	240,000	1,200,000	2,600

○青色申告特別控除額の計算 (この計算に当たっては、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を参照してください。)

項目	金額
① 本年分の不動産所得の金額(青色申告特別控除額を差し引く前の金額)	
② 青色申告特別控除前の所得金額(1ページの「損益計算書」の金額をいってください)	4,104,791
③ 65万円又は55万円と②のいずれか少ない方の金額(青色申告特別控除を受ける場合)	550,000
④ 10万円と③のいずれか少ない方の金額(青色申告特別控除額)	
⑤ ②と④のいずれか少ない方の金額	

○月別売上(収入)金額及び仕入金額

売上(収入)金額	売掛帳や買掛帳を例えば20日や25日など月の途中で締め切っている場合でも、1月1日から12月31日までの売上(収入)金額や仕入金額を記入します。
仕入金額	この場合、月別内訳は、2月から11月までの各欄には帳簿のそれぞれの月の月計の金額をそのまま記入し、1月と12月の欄で調整しても差し支えありません。
家事消費等 雑収入	1月から12月までのそれぞれの合計額を記入します。 また、「家事消費等」の欄は、消費などした都度他の売上げに含めて記帳している場合は、毎月の売上金額にそれを含めて記入し、「家事消費等」の欄の記入を省略しても差し支えありません。 なお、消費税の課税事業者が、消費税等の経理処理を税込経理方式によっている場合に消費税等の還付税額があるときは、その還付税額(還付税額を本年分の未収入金に計上したときは、その未収入金に計上した金額)を含めて、「雑収入」の欄に記入します。 ※ 消費税等の経理処理については、「青色申告の決算の手引き(一般用)」(7ページ)を参照してください。
うち軽減税率対象	「計」欄のうち、消費税の軽減税率の対象となる金額をそれぞれ記入します。 なお、記入を省略しても差し支えありません。 ※ 軽減税率制度については、軽減税率制度についてのチラシやパンフレットのほか国税庁ホームページ(https://www.nta.go.jp)内の特設サイト「消費税の軽減税率制度について」をご覧ください。

○給料賃金の内訳及び○専従者給与の内訳

延べ従事月数	従事月数の合計を記入します。
所得税及び復興特別所得税の源泉徴収税額	年末調整後の所得税及び復興特別所得税(以下「所得税等」といいます。)の源泉徴収税額を記入します。 なお、年途中で退職した方などで年末調整が行われない方については、本年中に徴収した所得税等の源泉徴収税額を記入します。

○貸倒引当金繰入額の計算

個別評価による本年分繰入額	① 「個別評価による本年分繰入額」のある方は、「個別評価による貸倒引当金の繰入額を算出する方法」(別添)を参照してください。
---------------	--

(注) 国税庁ホームページからダウンロードできます。なお、税務署にも用意しています。

○青色申告特別控除額の計算

青色申告特別控除前の所得金額	⑦ 医業又は歯科医業を営む方で租税特別措置法第26条の適用を受ける社会保険診療報酬の所得がある方の場合には、その所得の金額を除いて記入します。
青色申告特別控除額	⑨ 決算書1ページの「損益計算書」の④欄へ転記します。

【記載例 (決算書3ページ)】

①減価償却費の計算

減価償却資産の 名称等 (固定資産をのぞく)	面 積 又は 数量	取得 年月	① 取得価額 (取得価額証明 書)	② 取得価額 の基礎 になる金額	③ 償却 方法	耐用 年数	④ 償却率 又は 定率償却率	⑤ 本年分の 償却額 ④×⑦	⑥ 割増(特別) 償却費	⑦ 本年分の 償却額合計 (⑤+⑥)	⑧ 半定率 割増率	⑨ 本年分の必要 経費算入額 (⑦×⑧)	⑩ 未償却残高 (期末残高)	備 考
木造倉庫部分	43㎡	H31.7	600,000	5,400,000	固定額	22	0.046	279,400	—	279,400	100	279,400	1,156,200	
4.シャッター		R2.9	800,000	600,000	定額	22	0.046	37,200	—	37,200	100	37,200	890,800	
照明設備	1台	H31.1	800,000	40,000	—	—	—	8,000	—	8,000	100	8,000	16,000	均等償却
耐水ペイント	1台	H19.3	900,000	98,220	固定額	15	0.142	13,800	—	13,800	100	13,800	84,200	
コンクリート	1台	R2.7	270,000	270,000	定率	5	0.400	108,000	—	78,000	100	78,000	312,000	
ネット張地盤		H30.1	250,000	250,000	—	5	0.200	50,000	—	50,000	100	50,000	100,000	
一括償却資産		R2.	180,000	180,000	—	1/3	—	60,000	—	60,000	100	60,000	120,000	
土地		R2.	980,000	(明細は別添)	—	—	—	—	—	—	—	980,000	—	一括28.2
			()											
			()											
			()											
計								467,549	—	467,549		1447,549	2,399,299	

(注) 平成19年4月1日以後に取得した減価償却資産について定率法を採用する場合にのみ⑥欄のカッコ内に償却保証額を記入します。

②利子割引料の内訳 (金融機関を除く)

支払先の住所・氏名	期末現在の借入金等の金額	本年中の利子割引料	そのうち必要経費算入額

③税理士・弁護士等の報酬・料金の内訳

支払先の住所・氏名	本年中の報酬等の金額	そのうち必要経費算入額	所得税及び住民税等特別控除の金額

④地代家賃の内訳

支払先の住所・氏名	賃借物件	本年中の賃借料・地租等の金額	そのうち必要経費算入額
〇〇市△△町×××× 〇〇 〇〇	土地	240,000	120,000

⑤本年における特殊事情

--

①減価償却費の計算

	平成19年3月31日以前に取得した減価償却資産		平成19年4月1日以後に取得した減価償却資産		
	旧定額法	旧定率法	定額法	定率法	
				250%定率法 平成19年4月1日から 平成24年3月31日までに取得 (※1)	200%定率法 平成24年4月1日 以後に取得 (※2)
①取得価額 (償却保証額)	取得価額そのままの金額を記入します。 下段の括弧内は記入する必要はありません。			下段の括弧内に償却保証額 (取得価額×保証率) を記入します。	
②償却の基礎 になる金額	① 「取得価額×90%」の金額 (漁業権や特許権などの無形固定資産は、取得価額そのままの金額) を記入します。 ② 減価償却費の累積額が取得価額の95%相当額に達した年分の翌年分以後5年間に均等償却を行う場合には、「取得価額×5%」の金額を記入します。	① 前年末の未償却残高 (「取得価額－前年末までの減価償却費の累積額」の金額) を記入します。 ② 減価償却費の累積額が取得価額の95%相当額に達した年分の翌年分以後5年間に均等償却を行う場合には、「取得価額×5%」の金額を記入します。	取得価額そのままの金額を記入します。	① 本年中に取得した資産は、取得価額そのままの金額を記入します。 ② 前年以前に取得した資産は、前年末の未償却残高 (「取得価額－前年末までの減価償却費の累積額」の金額) を記入します。 ③ 調整前償却額が償却保証額未済となる年分以後は改定取得価額 (最初に調整前償却額が償却保証額未済となる年の期首未償却残高) を記入します。	
償却方法	税務署に届け出ている償却方法を記入します。 ・ 届け出していない方は、旧定額法 (鉱業用減価償却資産は旧生産高比例法) になります。 ・ 平成10年4月1日以後に取得した建物は旧定額法になります。				・ 届け出していない方は、定額法 (鉱業用減価償却資産は生産高比例法) になります。 ・ 建物、建物附属設備及び構築物 (建物附属設備、構築物及び鉱業用の建物は平成28年4月1日以後に取得したものに限り) は、定額法 (鉱業用減価償却資産は定額法又は生産高比例法) になります。
耐用年数	7、8ページの「主な減価償却資産の耐用年数表」を参照してください。				
④償却率又は改定償却率	5ページの「減価償却資産の償却率等表」を参照してください。 また、一括償却資産の必要経費算入の適用を受ける場合には、「1/3」と記入します。				
⑤本年中の償却期間	資産を月の中途で取得や譲渡、取壊しなどをした場合は、その月を1か月として計算した本年中の償却期間の月数を記入します。				
⑥本年分の普通償却費	① 「②×④×⑤」で計算した金額を記入します。 ② 減価償却費の累積額が取得価額の95%相当額に達した年分の翌年分以後5年間に均等償却を行う場合には、「(取得価額－取得価額×95%－1円)÷5×⑤」の金額を記入します。		「②×④×⑤」で計算した金額を記入します。 ※ 未償却残高が1円になるまで償却します。		
⑦割増 (特別) 償却費	中小事業者が機械等を取壊した場合の特別償却などの適用を受ける場合に、割増などの部分の償却費 (普通償却費は含みません) を記入します。				
⑧未償却残高 (期末残高)	次の金額を記入します。 (1) 本年中に取得した資産は、④の金額から⑤の金額を差し引いた金額 (2) 前年以前に取得した資産は、前年末の未償却残高 (「取得価額－前年末までの減価償却費の累積額」の金額) から⑤の金額を差し引いた金額				
摘 要	減価償却費の累積額が取得価額の95%相当額に達した年分の翌年分以後5年間に均等償却を行う場合には、「均等償却」と記入します。 次のような場合に、それぞれ次のような事項を簡記します。 (1) 割増償却や特別償却の適用を受ける場合……その特例名 (2) 取得資産が中古である場合……その旨 (3) 資産を本年中に譲渡や取壊しなどをした場合……その月、事由など (4) 譲渡や取壊しなどをした資産について本年分の償却を省略した場合……その旨 (5) 中小事業者の少額減価償却資産の取得価額の必要経費算入の特例の適用を受ける場合……「措法28の2」 (6) 債務処理計画に基づく減価償却資産等の損失の必要経費算入の特例の適用を受ける場合……「措法28の2の2」		調整前償却額が償却保証額未済となる年分以後は「改定償却」と記入します。 平成24年4月1日から同年12月31日までに取得した減価償却資産について、250%定率法により償却費の額を計算することを選択している場合には、「250%定率法」と記入します。		

※1 平成19年4月1日から平成24年3月31日までに取得した減価償却資産について、200%定率法を適用する経過措置を受けることができます (平成25年3月15日までに「減価償却資産の償却の方法等に関する経過措置の適用を受ける旨の届出書」を提出している方に限り)。

※2 平成24年4月1日から同年12月31日までに取得した減価償却資産について250%定率法により償却費の額を計算することを選択している場合は、「250%定率法」の各欄を参照してください。

法定の耐用年数ではなく、取得後の使用可能年数を見積もって耐用年数とします。

取得後の使用可能年数の見積りが困難な場合は、大規模な改良をしていない限り、次の算式で計算した年数（その年数が2年未満となるときは2年とし、その年数に1年未満の端数があるときはその端数は切り捨てます。）を耐用年数とします。

[算 式]

① 法定耐用年数の全部を経過した資産

$$\text{法定耐用年数} \times 0.2 = \text{耐用年数}$$

② 法定耐用年数の一部を経過した資産

$$\text{法定耐用年数} - (\text{経過年数} \times 0.8) = \text{耐用年数}$$

(「資産を譲渡した場合の特例」については、「青色申告の決算の手引き (一般用)」(6ページ)を参照してください。

耐用年数	平成19年 3月31日 以前取得	平成19年 4月1日 以後取得	耐用年数	平成19年 3月31日 以前取得	平成19年 4月1日 以後取得	耐用年数	平成19年 3月31日 以前取得	平成19年4月1日から 平成24年3月31日までに取得				耐用年数	平成19年 3月31日 以前取得	平成19年4月1日から 平成24年3月31日までに取得				耐用年数	平成24年4月1日以後取得						
	旧定額法 償却率	定額法 償却率		旧定額法 償却率	定額法 償却率		250%定率法				200%定率法				旧定額法 償却率	250%定率法				200%定率法					
							償却率	償却率	改定償却率	保証率	償却率		改定償却率	保証率		償却率	改定償却率		保証率	償却率	改定償却率	保証率			
2	0.500	0.500	27	0.037	0.038	2	0.684	1.000	—	—	1.000	—	—	27	0.082	0.093	0.100	0.01902	0.074	0.077	0.02624				
3	0.333	0.334	28	0.036	0.036	3	0.536	0.833	1.000	0.02789	0.667	1.000	0.11089	28	0.079	0.089	0.091	0.01866	0.071	0.072	0.02568				
4	0.250	0.250	29	0.035	0.035	4	0.438	0.625	1.000	0.05274	0.500	1.000	0.12499	29	0.076	0.086	0.091	0.01803	0.069	0.072	0.02463				
5	0.200	0.200	30	0.034	0.034	5	0.369	0.500	1.000	0.06249	0.400	0.500	0.10800	30	0.074	0.083	0.084	0.01766	0.067	0.072	0.02366				
6	0.166	0.167	31	0.033	0.033	6	0.319	0.417	0.500	0.05776	0.333	0.334	0.09911	31	0.072	0.081	0.084	0.01688	0.065	0.067	0.02286				
7	0.142	0.143	32	0.032	0.032	7	0.280	0.357	0.500	0.05496	0.286	0.334	0.08680	32	0.069	0.078	0.084	0.01655	0.063	0.067	0.02216				
8	0.125	0.125	33	0.031	0.031	8	0.250	0.313	0.334	0.05111	0.250	0.334	0.07909	33	0.067	0.076	0.077	0.01585	0.061	0.063	0.02161				
9	0.111	0.112	34	0.030	0.030	9	0.226	0.278	0.334	0.04731	0.222	0.250	0.07126	34	0.066	0.074	0.077	0.01532	0.059	0.063	0.02097				
10	0.100	0.100	35	0.029	0.029	10	0.206	0.250	0.334	0.04448	0.200	0.250	0.06552	35	0.064	0.071	0.072	0.01532	0.057	0.059	0.02051				
11	0.090	0.091	36	0.028	0.028	11	0.189	0.227	0.250	0.04123	0.182	0.200	0.05992	36	0.062	0.069	0.072	0.01494	0.056	0.059	0.01974				
12	0.083	0.084	37	0.027	0.028	12	0.175	0.208	0.250	0.03870	0.167	0.200	0.05667	37	0.060	0.068	0.072	0.01425	0.054	0.056	0.01950				
13	0.076	0.077	38	0.027	0.027	13	0.162	0.192	0.200	0.03633	0.154	0.167	0.05180	38	0.059	0.066	0.067	0.01393	0.053	0.056	0.01882				
14	0.071	0.072	39	0.026	0.026	14	0.152	0.179	0.200	0.03389	0.143	0.167	0.04854	39	0.057	0.064	0.067	0.01370	0.051	0.053	0.01860				
15	0.066	0.067	40	0.025	0.025	15	0.142	0.167	0.200	0.03217	0.133	0.143	0.04565	40	0.056	0.063	0.067	0.01317	0.050	0.053	0.01791				
16	0.062	0.063	41	0.025	0.025	16	0.134	0.156	0.167	0.03063	0.125	0.143	0.04294	41	0.055	0.061	0.063	0.01306	0.049	0.050	0.01741				
17	0.058	0.059	42	0.024	0.024	17	0.127	0.147	0.167	0.02905	0.118	0.125	0.04038	42	0.053	0.060	0.063	0.01261	0.048	0.050	0.01694				
18	0.055	0.056	43	0.024	0.024	18																			

本年中の報酬等の金額	本年中に税理士や弁護士、公認会計士などに支払うことの確定した報酬や料金を記入します。
所得税及び復興特別 所得税の源泉徴収税額	本年中に支払うことの確定した報酬や料金で、まだ支払っていないものに対応する所得税等の源泉徴収税額も含めて記入します。

(令和 2 年 12 月 3 日現在)

（昭和計算を行っていない人は、記入する必要はありません。）

(7) ⑥目の金額は、1ページの「損益計算書」の③欄に修記してください。

— 6 —

主な減価償却資産の耐用年数表

<建物>

構造・用途	細目	耐用年数
木造・合成樹脂造のもの	事務所用のもの	24
	店舗用・住宅用のもの	22
	飲食店用のもの	20
	旅館用・ホテル用・病院用・車庫用のもの	17
	公衆浴場用のもの	12
	工場用・倉庫用のもの（一般用）	15
木骨モルタル造のもの	事務所用のもの	22
	店舗用・住宅用のもの	20
	飲食店用のもの	19
	旅館用・ホテル用・病院用・車庫用のもの	15
	公衆浴場用のもの	11
	工場用・倉庫用のもの（一般用）	14
鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造のもの	事務所用のもの	50
	住宅用のもの	47
	飲食店用のもの	34
	延べ面積のうちに占める木造内装部分の面積が30%を超えるもの	41
	その他のもの	31
	旅館用・ホテル用のもの	39
	延べ面積のうちに占める木造内装部分の面積が30%を超えるもの	39
	その他のもの	39
	店舗用・病院用のもの	38
	車庫用のもの	31
れんが造・石造・ブロック造のもの	事務所用のもの	41
	店舗用・住宅用・飲食店用のもの	38
	旅館用・ホテル用・病院用のもの	36
	車庫用のもの	34
	公衆浴場用のもの	30
	工場用・倉庫用のもの（一般用）	34
金属造のもの	事務所用のもの	
	骨格材の肉厚が、（以下同じ。）	
	4mmを超えるもの	38
	3mmを超え、4mm以下のもの	30
	3mm以下のもの	22
	店舗用・住宅用のもの	
	4mmを超えるもの	34
	3mmを超え、4mm以下のもの	27
	3mm以下のもの	19
	飲食店用・車庫用のもの	
	4mmを超えるもの	31
	3mmを超え、4mm以下のもの	25
	3mm以下のもの	19
	旅館用・ホテル用・病院用のもの	
	4mmを超えるもの	29
	3mmを超え、4mm以下のもの	24
	3mm以下のもの	17
	公衆浴場用のもの	
	4mmを超えるもの	27
	3mmを超え、4mm以下のもの	19
	3mm以下のもの	15
工場用・倉庫用のもの（一般用）	4mmを超えるもの	31
	3mmを超え、4mm以下のもの	24
	3mm以下のもの	17

<建物附属設備>

構造・用途	細目	耐用年数
アーケード・日よけ設備	主として金属製のもの その他のもの	15 8
店用簡易設備		3
電気設備（照明設備を含む。）	蓄電池電源設備 その他のもの	6 15
給排水・衛生設備、ガス設備		15

<車両・運搬具>

構造・用途	細目	耐用年数
一般用のもの（特殊自動車・次の運送事業用等以外のもの）	自動車（2輪・3輪自動車を除く。）	4
	小型車（総排気量が0.66リットル以下のもの）	4
	貨物自動車	4
	ダンプ式のもの	5
	その他のもの	5
	報道通信用のもの	6
	その他のもの	3
	2輪・3輪自動車	2
運送事業用・貸自動車業用・自動車教習所用のもの	自転車	4
	リヤカー	4
	自動車（2輪・3輪自動車を含む。乗合自動車を除く。）	3
	小型車（貨物自動車にあっては積載量が2トン以下、その他のものにあっては総排気量が2リットル以下のもの）	5
	大型乗用車（総排気量が3リットル以上のもの）	5
	その他のもの	4
乗合自動車	乗合自動車	5
	自転車、リヤカー	2
	被けん引車その他のもの	4
		4

<工 具>

構造・用途	細目	耐用年数
測定工具、検査工具（電気・電子を利用するものを含む。）		5
治具、取付工具		3
切削工具		2
型（型枠を含む。）、鍛圧工具、打抜工具	プレスその他の金属加工用金型、合成樹脂、ゴム、ガラス成型用金型、鋳造用型 その他のもの	2 3
活字、活字に常用される金属	購入活字（活字の形状のまま反復使用するものに限る。） 自製活字、活字に常用される金属	2 8

<器 具・備 品>

構造・用途	細目	耐用年数
家具、電気機器、ガス機器、家庭用品（他に掲げてあるものを除く。）	事務机、事務いす、キャビネット	15
	主として金属製のもの	8
	その他のもの	5
	応接セット	5
	接客用のもの	8
	その他のもの	5
	ベッド	8
	児童用机、いす	5
	陳列だな、陳列ケース	6
	冷凍機付・冷蔵機付のもの	8
	その他のもの	5
	その他の家具	15
	接客用のもの	5
	その他のもの	8
	主として金属製のもの	5
	その他のもの	5
	ラジオ、テレビジョン、テープレコーダーその他の音響機器	8
	冷房用・暖房用機器	6
	電気冷蔵庫、電気洗濯機その他これらに類する電気・ガス機器	6
	氷冷蔵庫、冷蔵ストッカー（電気式のものを除く。）	4
	カーテン、座ぶとん、寝具、月前その他これらに類する繊維製品	3
	じゅうたんその他の床用敷物	3
事務機器、通信機器	小売業用・接客業用・放送用・レコード吹込用・劇場用のもの	6
	その他のもの	15
	室内装飾品	8
	主として金属製のもの	2
	その他のもの	5
	食事・ちゅう房用品	15
	陶磁器製・ガラス製のもの	8
	その他のもの	5
	主として金属製のもの	15
	その他のもの	8
時計、試験機器、測定機器	謄写機器、タイプライター	3
	孔版印刷・印書業用のもの	5
	その他のもの	4
	電子計算機	5
	パーソナルコンピュータ（サーバー用ものを除く。）	5
	その他のもの	5
	複写機、計算機（電子計算機を除く。）、金銭登録機、タイムレコーダーその他これらに類するもの	5
	その他の事務機器	5
	テレタイプライター、ファクシミリ	5
	インターホン、放送用設備	6
光学機器、写真製作機器	電話設備その他の通信機器	6
	デジタル構内交換設備、デジタルボタン電話設備	10
	その他のもの	10
	時計	10
	度量衡器	5
	試験・測定機器	5
	カメラ、映画撮影機、映写機、望遠鏡	5
	引伸機、焼付機、乾燥機、顕微鏡	8
看板、広告器具	看板、ネオンサイン、気球	3
	マネキン人形、模写	2
	その他のもの	10
	主として金属製のもの	5
	その他のもの	5
容器、金庫	ボンベ	6
	溶接製のもの	8
	鍛造製のもの	10
	塩素用のもの	8
	その他のもの	10
	ドラムかん、コンテナその他の容器	7
	大型コンテナ（長さが6m以上のものに限る。）	7
	その他のもの	3
	金属製のもの	2
	その他のもの	5
理容・美容機器	金庫	20
	手さげ金庫 その他のもの	5

<器 具・備 品>のつづき

構造・用途	細 目	耐用年数
医療機器	消毒殺菌用機器	年 4
	手術機器	5
	血液透析又は血しょう交換用機器	7
	ハバードタンクその他の作動部分を有する機能回復訓練機器	6
	調剤機器	6
	歯科診療用ユニット	7
	光学検査機器	6
	ファイバースコープ	8
	その他のもの	
	レントゲンその他の電子装置を使用する機器	
娯楽・スポーツ器具	移動式のもの、救急医療用のもの、自動血液分析器	4
	その他のもの	6
	陶磁器製・ガラス製のもの	3
	主として金属製のもの	10
	その他のもの	5
	たまつき用具	8
	パチンコ器、ビンゴ器その他これらに類する球戯用具、射的用具	2
	ご、しょうぎ、まあじゃん、その他の遊戯具	5
	スポーツ具	3

<機械・装置>

設備の種類	細 目	耐用年数
食料品製造業用設備		年 10
飲料・たばこ・飼料製造業用設備		10
繊維工業用設備	炭素繊維製造設備 黒鉛化炉 その他の設備 その他の設備	3 7 7
木材・木製品(家具を除く)製造業用設備		8
家具・装備品製造業用設備		11
パルプ・紙・紙加工品製造業用設備		12
印刷業・印刷関連業用設備	デジタル印刷システム設備 製本業用設備 新聞業用設備 モノタイプ・写真・通信設備 その他の設備 その他の設備	4 7 3 10 10
ゴム製品製造業用設備		9

<機械・装置>のつづき

設備の種類	細 目	耐用年数
なめし革・なめし革製品・毛皮製造業用設備		年 9
窯業・土石製品製造業用設備		9
鉄鋼業用設備	表面処理鋼材・鉄粉製造業・鉄スクラップ加工処理業用設備 純鉄・原鉄・ベースメタル・フェロアロイ・鉄素形材・鋳鉄管製造業用設備 その他の設備	5 9 14
金属製品製造業用設備	金属被覆、彫刻業・打はく、金属製ネームプレート製造業用設備 その他の設備	6 10
林業用設備		5
鉱業・採石業・砂利採取業用設備	石油・天然ガス鉱業用設備 坑井設備 掘さく設備 その他の設備 その他の設備	3 6 12 6
総合工事業用設備		6
倉庫業用設備		12
運輸に附帯するサービス業用設備		10
飲食料品卸売業用設備		10
飲食料品小売業用設備		9
その他の小売業用設備	ガソリン・液化石油ガススタンド設備 その他の設備 主として金属製のもの その他のもの	8 17 8
宿泊業用設備		10
飲食店業用設備		8
洗濯業・理容業・美容業・浴場業用設備		13
その他の生活関連サービス業用設備		6
自動車整備業用設備		15

(注) この表にないもので、お分かりにならないものは、最寄りの税務署にお尋ねください。